

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【 理科 】

掲載数

59

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小5	理科	生命のつながり	理科の学習において、「ヒトのたんじょう」を学習した。女性の体内で育つ胎児の様子や期間など、気になることをインターネットや本、家族へのインタビューを通して学習を進めた。胎児は、最初は何もないところから体の部分が少しずつ形成され、心臓が動いたり、動き回ったりしながら成長していく様子に驚いていた。命の誕生は簡単ではなく、とてもかけがえのないものだ実感していった。	理科 教科書
2 川崎市	小3	理科	チョウを育てよう	学校の花壇で生まれたモンシロチョウ、ツマグロヒョウモンの幼虫の飼育を通して、チョウは卵、幼虫、蛹、成虫の順に育つことを学んだ。新鮮な餌や適度な水分が必要だとわかり、生き物係を中心に世話をした。天敵は鳥だけでなく、蜂に食べられたり寄生されたりすることを知り、生き残ることの大変さを実感していた。蛹になって1週間ほどで様子が変わり、羽化が近いことに気づく姿が見られた。成虫になったチョウは、空へ飛び立たせて「元気でね」「また帰ってきて卵を産んでね」と思い思いの言葉をかけていた。	
3 川崎市	小5	理科	ヒトのたんじょう	胎児の様子に着目して、時間の経過と関係づけながらヒトの発生や成長を調べる活動を行った。自分たちがどのように成長してきたのかを調べることで、生きていることの実感を持ち、自分自身の命について改めて考える児童の様子が見られた。調べ学習を通して、ヒトも、子どもが大きくなって親になることで、生命が受け継がれていっているということを理解することができた。	理科教科書 理科学習指導書
4 川崎市	小5	理科	命について学ぶ	いろいろな資料を活用して、ヒトの受精卵のようすや母体内で成長して生まれることをとらえるようにする。 また、実際に赤ちゃんと触れ合ったり、妊婦体験や赤ちゃん人形を抱っこしたりする活動を通して、生命は連続しているという考えをもつことができるようにするとともに、生命を尊重する態度を育てる。	NPO法人 ままとんきっず
5 川崎市	小3	理科	「チョウを育てよう」	昨年学年園に植えたキャベツからモンシロチョウの卵をとり、チョウになるまで観察、世話をした。毎日、小さな成長に気付き、無事に羽化したときには、自然に返す瞬間も見届けることができ、その後も楽しく生きられるよう願う姿がたくさん見られた。懸命に生きる姿を見られたことは良い経験となった。	理科の教科書、学年園のキャベツ、モンシロチョウの卵

6	相模原市	小5	理科	ヒトのたんじょう	ヒトのたんじょうについて学習することを通して、命の大切さを学んだ。保健室から借りた赤ちゃん人形を抱いて重さを実感させたり、教科書にある実物大の新生児の写真と自分を比べさせたりすることで赤ちゃんの大きさを実感させた。自分自身と比較することで大きく成長したことを実感した児童もいた。学年に妊娠している教師や出産を経験した教師がいたため、胎動のことや体験談を聞くことで、教科書や動画で学ぶだけよりも、生命の尊さにふれることができた。	
7	相模原市	小5	理科	ヒトのたんじょう	理科「ヒトのたんじょう」の学習の際に、児童が保護者にインタビューを行い、妊娠している間の話や生まれてきた時の様子、生まれてすぐの頃の様子を聞く活動を行った。それを授業内で交流し、一人一人が誰かに支えられて生まれ、今生きていることを再認識させた。	
8	相模原市	小5	理科	受けつがれる生命「ヒトのたんじょう」	「メダカのたんじょう」の学習と比較しながら「ヒト」がどのように誕生するのかを学習した。主に母親のお腹の中でどう受精卵が変化していくのかを学び、ヒトが生まれることの大変さ、命の尊さを知ることができた。また、人だけでなく、植物、動物も命が受けつがれていくものだという事とも知れた。	
9	相模原市	小5	理科	人の誕生	人はどのように誕生したのかを授業を通して児童は学んだ。また、養護教諭におなかの中での成長の仕方やどのくらいの期間で生まれるのかインタビューを行った。赤ちゃん人形を使い、赤ちゃんの抱き方や体の特徴を体験的に学んだ。最後に、クラスでグループを作成し、学んだことをスライドにまとめ、お互いにアウトプットし合い、学習を深めていった。	クロムブック 養護にインタビュー 赤ちゃん人形
10	相模原市	小5	理科	人の誕生	人はどのように誕生したのかを授業を通して児童は学んだ。また、養護教諭におなかの中での成長の仕方やどのくらいの期間で生まれるのかインタビューを行った。赤ちゃん人形を使い、赤ちゃんの抱き方や体の特徴を体験的に学んだ。最後に、クラスでグループを作成し、学んだことをスライドにまとめ、お互いにアウトプットし合い、学習を深めていった。	クロムブック 養護にインタビュー 赤ちゃん人形
11	横須賀市	小3	理科	元気に育ててね	三年生では毎年、理科の学習でカイコを育てている。カイコが卵から孵化し、幼虫から成虫まで育てる学習を通して、カイコの一生や生態についての学習をし、一つの命について考えさせた。カイコの世話をすることで命と向き合うことや、小さな生き物でも大切な命であると考えを深める様子が見られた。実際に世話をすることで、命を預かることの大変さも、実感できた様子であった。	
12	横須賀市	小3	理科	カイコを育てる	子どもたちは、桑の葉を与えたり、飼育箱を掃除したりする中で、真剣にカイコを観察し、世話をを行った。最初は、苦手意識を感じていた子どももいたが、世話を続けると、カイコのかわいらしさを感じるようになった。カイコの「命」を育むことで、生命に対する慈しみの気持ちや育てることの難しさを実感した。	

13	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	人のたんじょうについて資料を活用しながら、人の生命の誕生までを確かめた。また、時間経過とともに成長する胎児の様子を調べ、人のたんじょうまでに至る経緯を理解した。母親の子宮の中で、へその緒を通して、母親から養分などをとりいれながら成長したことや生まれた後も母乳などで大切に育てられて今があることなどを理解し、家族の大切さに気付くことができた。この学習を通して、子どもたちは自分自身や家族を大切にしたいと感じていた。	
14	横須賀市	小5	理科	人の誕生	これまで児童は、メダカとヘチマの学習に取り組んでおり、受精についても学んでいる。今回は「人の誕生」ということで、お腹の中から誕生までを学習した。自分たちでお腹の中の様子について調べたり、全体で共有したりしながら学習を進めた。養護教諭より、赤ちゃん人形を借りて重さを実感し、母親の気持ちを知ること、今、自分がいることの大切さや、命がかけがえのないものであることなどを学んだ。	事前に養護教諭と相談した。保健室に、関連する様々な教具があり、活用した。
15	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	人の発生についての資料を活用する中で、胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、人の発生や成長を調べる活動を行った。人は、母体内で成長して生まれることを捉えることで、動物の生命のつながりについても興味をもち考えることができ、生命を尊重する態度を育てることができた。	
16	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	「魚のたんじょう」や「花から実へ」を「命シリーズ」として学習し、生き物がみな命をつないでいるのだという感覚を養った。そこから「人のたんじょう」へつなぎ、人も同じように命をつないでいることを実感させるよう計画、実践した。時代背景も考慮し、つないでいく必要性については問わず、つながった結果今の自分があるのだという理解に重点を置いて、学習を進めることとした。単元の最後には自分がいかに大切に育てられながら生まれてきたのかということを見事に児童に自覚させることも目標の一つとした。	<ul style="list-style-type: none"> 理科の教科書「人のたんじょう」 NHKforSchool
17	横須賀市	小5	理科	魚のたんじょう	魚を育てる中で、卵の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、魚の発生や成長を調べる活動を通して理解を図った。また、生まれた卵は日が経つにつれて中の様子に変化していくことを理解することができた。メダカの死を通して、「なぜ死んでしまったのか」「何がいけなかったのか」児童同士交流することで、死生観を学ぶことができた。	NHK for school ふしぎがいっぱい
18	横須賀市	小5	理科	人の誕生	人の発生についての資料を活用する中で、胎児の様子に着目して、時間の経過と関係づけて、人の発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解を図った。胎児の母体内での成長について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとする姿が見られた。	
19	横須賀市	小6	理科	地球と私たちの暮らし	人の生活について、環境との関わり方の工夫に着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、人と環境との関わりについての理解を図った。食物連鎖やSDGsの目標達成が、人が生きていくうえでいかに大切なことか理解しようとする姿が見られた。	

20	湘南三浦	小5	理科	ふれあい体験授業	葉山町の子ども育成課の保健師、出産を控えた妊婦さんを講師に迎え、5年理科「人の誕生」の学習及び人権教育の一環として実施した。いのちの芽生えやおなかの中で成長する赤ちゃんの様子、赤ちゃんがお母さんの身体に送る様々なサインなどについて話を真剣に伺った。また、妊婦さんのご家族の思いを直接お聞きし、自分や家族、友だちの、いのちの大切さについてじっくりと考えた。	講師：葉山町職員（保健師）、妊婦さん
21	湘南三浦	小5	理科	魚の誕生	生命の誕生の単元で、メダカの飼育をした。各クラスとも教室で飼育を続けた。卵を産み、卵から孵る様子を観察し、喜びを感じていた。産卵後は卵を取り出し、最初は透明で何もなかったところから目ができ、血管が見え、心臓が動き、卵の膜を破って子メダカが生まれた時は大きな喜びを感じた。子どもたちは、生命への責任を実感することができたようであった。また、命が途絶えてしまったメダカをと通して、命の大切さを実感することができた。	理科専科 メダカ
22	湘南三浦	小3	理科	チョウを育てよう	子どもたちは、校庭のキャベツの葉に産みつけられたモンシロチョウの卵を見つけ、それを飼育ケースに入れて、世話をしながら成虫になるまで観察した。また、アゲハチョウの卵は、自宅の夏ミカンの木で見つけた子が持ってきたので同様に世話と観察をして幼虫、さなぎ、成虫と育てていく様子を見守った。実際に卵から観察を続けることにより、生命の不思議さや大切さについて考えるきっかけとすることができた。特に羽化の様子には神秘さを感じる子が少なくなかった。	理科専科 モンシロチョウ アゲハチョウ
23	湘南三浦	小3	理科	命を育む (蚕の飼育)	蚕を卵から飼育し、成長を見守ることを体験した。実際の「命」を育むことで、命を愛おしみ大切にすることや、飼育していくことの難しさを感じていた。	
24	湘南三浦	小5	理科	メダカを育てる	メダカを扱い、魚の誕生について学習する。 メダカの産卵条件や飼育条件を学習し、学校で飼っている大人メダカを各学級に分配し、育て、受精卵を産ませた。このような活動を通して命の尊さを実感させ、命を大切に育む心を作る。	
25	湘南三浦	小5	理科	いのちの誕生	教員自身の妊娠や出産の体験をもとに、エコー写真等を見せながら、どのようにいのちが誕生するのか、妊娠中の様子や苦勞、出産の喜びなどを伝えた。また、妊娠中の体の具合がわかるよう、胎児ほどのおもりをお腹に抱えるという体験も行った。児童から、自分も大切に守られ生まれ、誕生を喜ばれたということがわかったという感想があがった。	
26	湘南三浦	小3	理科	命を育む (モンシロチョウの飼育)	モンシロチョウを卵から飼育し、成長を見守ることを体験した。実際の「命」を育むことで、命を愛おしみ大切にすることや、飼育していくことの難しさを感じていた。	

27	湘南三浦	小5	理科	魚のたんじょう 「いのちを大切に する心」	メダカが水草に産んだたまごの様子を観察し、卵の中で成長し、変化していく様子を追っていった。孵化するまでの変化を追っていくなかで、「大切に育てていかなければ」という思いや「元気に生まれてきますように」といった児童の言葉があり、メダカを大切に思う心と自分たちのいのちも大切に思う心を育ていけるよう、子どもたちと「いのち大切に思う心」について共有した。	小学校理科5年 学校図書 みんなと学ぶ
28	湘南三浦	小3	理科	蚕の育ち方	蚕を飼育する中で、命の尊さを学んだ。毎日、餌をあげたり掃除したりする中で、成長の過程を知るだけでなく、愛着を持つようになり、命の大切さを実感する授業となった。	
29	湘南三浦	小5	理科	人のたんじょう	生命が誕生することを身近な先生の妊娠・出産から自分事として捉え、感じ、学びへと繋げてほしいと思い、授業を構想した。妊娠9か月の2人目の産休に入った教員が、講師として授業を行った。子どもが母体内でどのように成長していったか、エコー写真を提示しながら説明した。そして、教員のお腹に手を当て触らせて胎動を感じさせた。また、胎児の時期から、親が子どもをどんなに大切に思っているかを伝えた。	
30	湘南三浦	小5	理科	生命のつながり	生命の誕生からその成長に至るまでの過程を学ぶ中で、自分たちがいかに貴重な存在であるか考える時間を作った。自分自身が生まれ育った経緯や、ここまで成長してくる中で苦労した部分などを保護者にインタビューなどをして、命のつながりを俯瞰的に見られるように留意した。やがて大人になり、次の世代に受け継いでいくことについても触れ、生命尊重についても考える機会を持った。	大日本図書 「たのしい理科」 生命のつながり ひとのたんじょう
31	湘南三浦	小5	理科	葉山めだか	理科の授業でメダカを育て、観察をしてきたが、さらに「葉山メダカの会」の方を講師として招聘し、自分たちが住んでいる地域特有の「葉山メダカ」について学び、その飼育方法や葉山メダカを保護している活動を知ることによって、地域に思いをはせるとともに、自然環境を豊かに保っていくことが葉山メダカの命を継続していくことにつながることに、葉山も自然を大事にすることが命をつなげていくことになることを学んだ。	葉山メダカの会
32	湘南三浦	小5	理科	人の誕生と成長	人の発生についての資料を活用する中で、胎児の様子に着目して、時間の経過と関連付けて、動物の発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解を図る。予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度を養う。	大日本図書 「ひとのたんじょう」
33	県央	小5	理科	人のたんじょう	理科「人のたんじょう」の学習では、胎児の様子や命の重さを知るために、導入として胎児エプロンを使用し、実際の大きさと重さの体験を行った。また、エコー写真や産まれたての子どもの写真を見せた。児童は、自分も小さな命だったのだという実感をし、予想よりも重さがあることや成長のスピードに驚いていた。胎児について調べたいことを考え、次の調べ学習に意欲を高めていた。	

34	県央	小3	理科	こんちゅうのかんさつ 植物の一生	昆虫がたまごから幼虫、さなぎを経て成虫へと育ち、また散乱をしていく様子を学習した。植物も、1学期から種、子葉、つぼみや花、枯れて実と種ができる様子を学習した。二つの単元を1学期から2学期にかけて学習する中で、児童からは「命が次につながっているね。」「今の命を大切にすると、次の命を残すことができる。」等の「生命のいのち」に目を向けた価値観が芽生え始めた。単元そのものの知識や理解のみならず、いのちち自分事としてとらえる姿、普遍の価値観として主体的にとらえる姿が見られた。	わくわく理科3 啓林館
35	県央	小5	理科	メダカのたんじょう ヒトのたんじょう	メダカの誕生から成魚になるまでを観察したり、飼育したりすることを通して、生命の尊さに触れる学習をした。また、ヒトの誕生についても学習し、改めて命の大切さを学んだ。	
36	県央	小5	理科	「ヒトのたんじょう」	ヒトの受精卵から育ちヒトがたんじょうするまでについて、様々な哺乳類と比較しながら、いろいろな資料を使って調べた。メダカの成長の学習と並行しながら、大きさが変化することや、成長するために必要な養分をどのように取っているのかなどについて、図鑑や教科書、インターネットを使って調べ、調べたものは、画用紙やパソコンでまとめた。また、出産経験者の体験談を交え、心の尊さに触れレポートにまとめた。	インターネット NHK for School 「ふしぎいっぱい」 図鑑 小学館の図鑑NEO
37	県央	小5	理科	受けつがれる生命	メダカの誕生や成長、雌雄の特徴や養分のとり方について興味をもち、生命を大切にしようとする気持を持たせるようにした。 ヒトの誕生に興味をもち、胎児の母体内での成長のようすについて、生命のすばらしさをとらえることができるようにした。	理科の教科書「ヒトのたんじょう」
38	県央	小3	理科	チョウを育てよう	チョウの飼育観察を通して、卵、幼虫、さなぎ、成虫と変化し、成長していくことがわかり、実際に触れ合い「食べる」「糞をする」などを目の当たりにして「生きている」ということを体感することができた。	
39	県央	小3	理科	チョウをそだてよう	学校の畑に産みつけられたモンシロチョウの卵をさがし、幼虫・さなぎ・成虫まで育て観察した。	
40	県央	小6	理科	「ヒトや動物の体」	ヒトや動物の体のつくりについて学び、生命の神秘にふれた。	NHK for schoolなどを活用
41	県央	小5	理科	いのちの教室	1. いのちの始まるお話を聞いた。 2. 出産の様子を知った。 3. 出産の様子をDVD視聴した。 4. 生まれた後の話。 5. 赤ちゃん人形を抱っこした。	講師：すくすく子育て 課家庭子ども相談係 大和市立病院看護部助産師

42	県央	小5	理科	ヒトの誕生	理科の学習でヒトの赤ちゃんは母親の体内でどのくらいの期間育つのか、母親のおなかの中でどのように変化していくかを調べた後、助産師さんから胎児の大きさや骨盤からの出産の様子など、実物大の模型を使っての説明を受けた。また、出産の様子のDVD視聴から、生まれてきた赤ちゃんは家族や周りの人から歓迎されていることを感じ、自分のいのちも友達のいのちも大事にすることを考えた。	すくすく子育て課より助産師さんを講師として派遣
43	県央	小5	理科	人の誕生	命が誕生するまでの様子を勉強した。命が約0.1mm程度の受精卵から始まり、母親のお腹の中で徐々に大きくなっていく様子を人形を使いながら学習した。実際に生まれる時の様子をビデオで視聴し、母親の大変さや家族の喜びを理解した。それを踏まえて、各クラスで命について考えたことをまとめた。母親の苦労を感じたり、生まれてきたことに感謝の気持ちをもったりするよい機会となった。	スライド資料 映像資料 胎児の人形
44	県央	小5	理科	生命のつながり	地域の方より、毎年、メダカやメダカの卵をいただいている。また、地域の方にビオトープの管理もしていただいている。子どもたちは、普段からビオトープでメダカを見ることができ、そのメダカがどのように生まれ、育っているのかは分かっていない。卵の中で心臓が動いたり、目が見えたりすると、メダカも小さな「命」であることを実感できる。その卵が孵らなかつたり、小さなメダカが死んでしまつたりすることもあり、命の尊さを感じていた。	協力：地域の方
45	県央	小5	理科	魚の誕生	この授業では、「魚の誕生」という具体例から生命のつながりを学び、「いのちを守る」という大きなテーマにつなげました。児童は、自分たちが日常でできる小さな行動が、地球規模のいのちを守ることに繋がるということを実感し、ふりかえりを通じてその考えを共有しました。授業後には、「家でもできることを探してみたい」「海のゴミを減らすためにリサイクルを頑張りたい」といった声が上がリ、学びが実生活に活かされる可能性を感じました。	
46	県央	小5	理科	「人のたんじょう」	「人の子どもは、母親の子宮の中でどのように育ち、うまれてくるか」をテーマに調べ学習を行い、スライドにまとめた。その後、クラスの中で発表形式の授業を行い、自分の発表と友達の発表から出産の大変さ・母の大変さ・自分がこれまでたくさんの人の支えや関わり合いの中で育ててもらったこと、命の大切さ等を考えられるようになった。また、出産の大変さだけでなく今自分が元気でいられることに感謝の思いを持ち、今できることを実践しようとする児童もいた。	
47	県央	小6	理科	生き物どうしのかかわり	食物連鎖の学習では、「食べるもの」から「食べられるもの」への矢印をたどりながら、自然の中で生き物はそれぞれ独立して生きているのではなく、複雑に関わり合いながら生きていることをとらえさせた。ある1種類の生き物が増えたり減ったりするだけで、自然のバランスが崩れる可能性があることから、あらゆる生命を大切にしようとする生命尊重の態度を養うことにつながった。	新しい 理科 6年 東京書籍

48	県央	小5	理科	人のたんじょう	理科「人のたんじょう」の学習に関連し、綾瀬市の保健師に来校していただき、お母さんのお腹の中で赤ちゃんがどのように成長するのかを人形を使って知ることができたり、妊娠中のお腹の重さのおもりを体に付けて、お母さんの大変さを感じたりした。また、人形を使って新生児のおむつ替えやだっこを体験した。親の大切さを知って、自分が大切に育てられていることを感じる事ができた。また、子どもを生き育てることの大切さもお話ししていただき、親になる覚悟ができてから赤ちゃんを生むことが大切だと知ることができた。	東京書籍 「新しい理科5」 講師：綾瀬市保健師
49	中	小5	理科	ヒトのたんじょう	既習の種子の発芽やメダカのたんじょうに続いてヒトのたんじょうについて扱った。受精卵が母体内で成長する様子や誕生時の胎児の様子について予想や仮説を立て、それを調べることで主体的に学習した。児童は、自分たちが生まれたときの様子を家で保護者に聞いてきたり、調べて分かったことを紹介したりして、命の尊さや命の不思議についてとらえることができた。	
50	中	小3	理科	「こん虫の育ち方」	モンシロチョウの羽化の瞬間を見届けた。冷蔵していたさなぎを手の上で温め、成虫が出てくる瞬間を子どもたちの目の前で観察した。最初は、怖がる様子も見られたが、羽化した際には、全員でハッピーバースデーの歌い、また、どの班でも羽化したモンシロチョウに名前をつけていた。学習後の振り返りには、「生まれて頑張れと思った」、「人間の赤ちゃんが生まれる瞬間みたいだった」など生き物の命の尊さを感じる事ができた。	
51	中	小5	理科	生きてるだけで100点満点	5年理科「ヒトの誕生」を振り返りながら講話のスタイルで行った。自分自身が小さな受精卵だったころがあり、子宮の中で成長し、いのちがけて生まれてきたことについての話がされた。講話の中で、受精卵の大きさが分かる資料や、大人と子ども自身の脈拍を比べたり、胎児の鼓動を聞く機会があった。また、新生児と同じ大きさ、重さの人形を抱く体験も行われた。	
52	県西	小3	理科	チョウを育てよう	チョウの成長する過程を観察し、虫の育ち方に興味をもち、どのような形で生まれ、形を変えながら育っていく過程を知る。卵から生まれ、脱皮を繰り返しながらだんだんと大きくなっていく様子を見ていくうちに、愛着をもつようになり、飼い方を調べて大切に世話をするようになった。さなぎからチョウへ羽化した時には大きな感動を味わうことができた。最後には、クラスで相談して、広い自然に返してあげようと別れを決断し、命を大切にすることを学ぶことができた。	学校図書 みんなと学ぶ 小学校理科3年「チョウを育てよう」
53	県西	小3	理科	いのちを見つめて	プランターに植えてあったキャベツに産みつけられたモンシロチョウの卵に気づき「育ててみよう」という児童の提案から学習がスタートした。育てる中で自分たちでエサのキャベツを探してきたり、自分で見つけた新たなモンシロチョウの幼虫を学校に連れてきたりするなど、積極的に世話をしていた。色々な虫を育てたいと捕まえてきた虫の中で死んでしまうものをいいて、命を預かっている重さについて話し合い、お墓を作るなど、生き物の特徴について学ぶだけでなく、生き物を飼うことの責任についても考えた。	東京書籍 新編 新しい理科「春の生き物」

54	県西	小5	理科	メダカの誕生	理科の授業を柱に、餌やりや水槽掃除、水の入れ替え、卵の発見及び水槽移動などを、児童が全て行った。朝登校してから帰るまで、休み時間の度に世話をしている児童も幾人かいた。卵の様子を毎日観察を続け、変化がある度に児童同士で確認することができた。孵化までの様子を観察するなかで、メダカが目、体が動く様子を見てとても小さい体にも命があることを実感していた。孵化したあとも、成長させるために、児童たちが自発的に水槽掃除や水の入れ替えを継続することができた。	
55	県西	小5	理科	人のたんじょう	人の誕生や成長について、理科「魚のたんじょう」で学習した内容を思い出しながら学習を進めていった。胎児がどのように成長していくのか知る過程の中で、自分が生まれたときについて振り返る時間を設けた。新たな命を授かった時の母親の思いに触れ、一人ひとりの命が大切に育まれ誕生したことを知り、改めて命を大切にしていこうと考えることができた。	教科書
56	県西	小3	理科	ちょうの観察	理科の「ちょうのかんさつ」では、ちょうが成長する様子を観察するため、柑橘類に張り付いている卵を用意した。児童は卵を育ててみたいという思いをもった。幼虫の餌が柑橘類の葉だと知ると、家から葉を用意し、可愛がって世話をした。児童は、毎日世話をしながら幼虫の成長を優しく見守った。さなぎが成虫へかえると、毎日外へ逃がし、生き物を大切に思う気持ちが育った。今まで生き物に関心がなかった児童もいたが、可愛いと思う気持ちの変化がうまれた。	
57	県西	小5	理科	人のたん生	5年生では「発芽と成長」から「動物のたん生」、「人のたん生」へと、生命領域において学びをつないできた。共通性や多様性に視点をあてつつ、いのちの神秘性、連続性等を感じ、生命を尊重する態度を養うことをめざした。道徳と関連させ、教材「一枚の写真から」では、自分の過去の写真を見て、成長の喜びを感じ、これからも「いのち」を大切に生きようとする心情を養った。学習の終末では「生きているしょうこ」について考えを出し合い、学びを深めた。年間をとおして、いのちをつないでいく重要性を学び続けた。	
58	県西	小5	理科	魚のたんじょう	メダカの受精卵がどのように変化していくのか、1人に1つずつ配布したフィルムケースに受精卵を入れて大切に保管し、観察を続けた。卵の中が変化し、体ができていく様子を見ることで、生命の神秘を間近に感じる事ができた。心臓や目ができてからは、メダカの誕生を心待ちにしている様子がみられた。	外部講師 (元教諭)
59	県西	小5	理科	「魚のたんじょう」	一人一人に配られたメダカの受精卵を解剖顕微鏡で観察をし、「いのちの誕生」について実感的に学んだ。小さな卵の中にいのちが育っていることを実感した。子どもたちはその後、受精卵をケースに入れ、一人一人がそばに置き、何日も丁寧に観察をした。少しの変化に驚き、そして喜びを感じながら観察を続け、ふ化の瞬間には多くの児童が大きな感動を表現していた。	講師 元校長先生